

## カルメンの指輪

生命科学科 1年 Y. T.

四幕の最後にカルメンはホセにもらった指輪を投げ返している。◎昔の男からもらった指輪を現在の恋人の前でも嵌めているのは不自然ではないだろうか。彼女がホセからもらった指輪を嵌めているのは何故だろうか。

金銭面での問題ではないのは明らかだ。現在の恋人であるエスカミーリョは闘牛士で経済力がある。そして「皆さんをセビリャの闘牛にお招きしたい」と言っていることから気前の良さも分かる。そんな彼が「惚れているんだ、熱烈に！」と語ったカルメンに金を惜しむとは思えない。では単にデザインが気に入っていたから付けていた、と言うような事だろうか。しかしエスカミーリョの経済力をもってすればいくらでも指輪を買えただろうし、そうすれば一つくらい気に入る指輪があってもいいだろう。

この様に考えるとカルメンは指輪自体に執着していたわけではない、と言う事になる。つまりこの指輪から思い浮かぶ人物、ホセを意識していたのではないだろうか。一幕でホセはカルメンから花を投げつけられていた。そしてホセはカルメンへの恋を自覚する前であったにも関わらずその花を捨てなかった。○これはカルメンが無意識のうちにホセを意識して指輪を捨てなかったことの伏線ではないだろうか。カルメンはホセを忘れていないのだ。

しかし今でもカルメンがホセを好きなわけではないとも思う。二人が別れた一因に占いの結果があるのではないかと考える。おそらくカルメンはホセと出会う前には占いをしていない。もし占っていればどんな目に遭うかは分かっただろう。そうすればカルメンはホセと付き合いなかったと考えられる。台本によれば三幕ではホセが「仲直りしよう」と言っているので、二人はこの前に喧嘩をしている。ちょうどカルメンがホセに飽き始めたのかもしれない。カルメンが未来の事を占ったとしても不思議ではない状況だ。しかし「二人とも死ぬ」という結果が出てしまう。カルメンが「何度もタロット占いにでた」と言っている所以她は何回も占いをやり直している。カルメンは自分の死を信じたくなかったのだろう。そうであればホセに飽き始めていた事も手伝って、自分に死をもたらすと示された彼に対して愛情が冷めていき二人の距離が離れていくのも自然な流れだ。しかし自分を殺すだろう男を簡単に忘れられないのも自然な事だと思う。好きだから忘れられないのではなく恐ろしいから忘れられないのだ。四幕で「あの人の前で震えるあたしじゃないわ」と言うセリフや「死ぬ」とかなりの頻度で言っていたのも恐怖の裏返しかもしれない。

つまり指輪を捨てられなかったのはホセを恐怖の対象として意識していたからだ、と思う。恐ろしいから指輪を捨てられないし、忘れることも出来ないのだ。そして指輪を投げ捨てた後、カルメンはホセに刺殺される。これはホセと彼によってもたらされる死への恐怖から彼女が解放された後に死んでいった事を示しているのかもしれない。